



※本記事の無断転載を固く禁じます。
※本紙に関するご意見・ご要望などを
お待ちしております。

「建設キャリアアップシステム(以下、CCUS)」が本格導入されてから4年目を迎えようとしています。事業者や技能者の登録は着実に増え、大手・準大手の建設会社の中にはCCUSに基づく能力評価を手当に反映させる処遇改善への取り組みもみられるようになってきています。CCUSの普及を図る意義や普及促進への取り組みを、国土交通省 不動産・建設経済局 建設市場整備課 建設キャリアアップシステム推進室 専門調査官の牧野 健二氏にお聞きしました。



「建設キャリアアップシステム」の
ロゴマーク



目指すは「新3K(給与、休暇、希望)」、建設業界の環境改善を「建設キャリアアップシステム」の普及でさらに進めていきたいと考えています。

業界共通の制度インフラとして定着を

CCUSとは、技能者の資格や現場での就業履歴などを登録・蓄積し技能・経験を客観的に評価する仕組みを通じて、技能者に対する適切な処遇につなげるものです。国と業界団体が連携し官民一体になって業界共通の制度インフラとして定着させるため、普及促進に取り組んでいます。

狙いは大きく3つあります。①若い世代がキャリアパスの見通しを持てるようにする ②技能・経験に応じて技能者の処遇を改善できるようにする ③技能者を雇用し育成する建設会社が成長できるようにする——というものです。

こうした働き方改革や生産性の向上を通して、若い世代の入職環境を整える取り組みとも言えます。将来、熟練技能者の大量退職が見込まれているだけに、災害時の「地域の守り手」という持続性が求められる役割を建設業界が担い続けるには不可欠なものです。

発注者に選ばれるためのプラス評価も

CCUSの利用は3つの段階に分かれます。まず「技能者情報等の登録」です。これが、第一歩です。CCUSを利用しようとする事業者や技能者は自らの情報をシステムに登録します。事業者はまた、現場情報も登録します。次に「カードの交付・現場での読取」です。事業者は就業履歴の蓄積に必要なカードリーダーを現場に設置し、技能者は交付されたカードを現場に入場する時にカードリーダーに読み取らせます。それによって就業履歴がシステム上に蓄積されます。最後は「技能レベルのステップアップ」です。技能者の技能レベルは登録・蓄積されたデータを基に評価されます。技能レベルに応じた処遇の実現が期待されます。

事業者のメリットは、登録・蓄積データを利用することで事務作業の効率化・簡便化を図れる点や発注者に選ばれるためのプラス評価を受けられる点が挙げられます。このプラス評価として都道府県や市町村の一部で現在実施しているのは、入札参加資格、総合評価方式、工事成績評定での加点です。国では事業者のCCUS利用状況を経営事項審査で加点評価に加えることを検討中です。



国土交通省
不動産・建設経済局 建設市場整備課
建設キャリアアップシステム推進室 専門調査官
まきの けんじ
牧野 健二

専門工事は施工能力の見える化へ

専門工事会社については、このプラス評価の仕組みとして「施工能力等の見える化評価」があります。評価項目は「基礎情報」「施工能力」「コンプライアンス」の3つ。これら3つの項目ごとに定められた指標を基に、分野ごとの評価実施団体が工事会社を4段階で評価します。結果は国土交通省のホームページで公表しています。技能者を雇用し育成する工事会社が適正に評価される環境、つまり選ばれる環境を整えることが目的です。

一方、技能者のメリットは言うまでもありません。処遇改善です。まずシステムに登録・蓄積されたデータを基に、分野ごとの能力評価実施団体が技能者の技能レベルを4段階で評価します。技能者は、所属事業者や元請から一人ひとりの技能や経験に見合った適正な評価を受け、就業機会の増加や収入へ反映されることが期待されるほか、この仕組みを利用すれば、どの勤務先・どの現場でも自らの技能レベルを客観的な評価を基に証明することが可能になります。

CCUS利用の第一歩にあたる「技能者情報等の登録」は着実に増えています。2022年1月末の実績では、事業者は約16万社が、技能者は約81万人が登録済みです。工事実績がある事業者数は約20万社ですから登録済み事業者はすでに4分の3に達しています。一方、技能者は約310万人と言われていたから登録済み技能者は現状で4人の1人の割合となっています。

就業履歴蓄積を可能にする環境整備を

登録済み事業者にはぜひ、その次の段階である「カードの交付・現場での読取」を可能とする環境を整えていただきたい、と願っています。具体的には、現場へのカードリーダーの設置です。カードリーダーの設置に向けては、業界団体が購入し構成事業者が無償貸与する取り組みを支援する助成措置を厚生労働省が実施しています。また小規模でカードリーダーを設置できない現場向けには、スマートフォンや携帯電話で定められた番号に発信したり顔写真を撮影したりするだけで就業履歴を蓄積できるシステムをすでに構築済みです。これらの仕組みをぜひ、ご活用ください。

建設業界はかつて「3K(きつい、汚い、危険)」と言われました。しかしその後、関係者の努力で労働環境は改善されつつあります。そうした環境改善を、CCUSの普及でさらに進めていきたいと考えています。目指すは「新3K(給与、休暇、希望)」です。魅力ある業界に改めていくための重要な制度インフラの普及促進に引き続き取り組んでまいります。(談)

図:「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の概要



事業者や技能者は技能者情報等をまず登録し、事業者は就業履歴の蓄積に必要なカードリーダーを現場に設置し、技能者は交付されたカードを現場に入場する時にカードリーダーに読み取らせる。技能者の技能レベルは、このシステムに登録・蓄積されたデータを基に、4段階で評価されることになる